

# 十勝岳における火山災害軽減のために

火山活動を的確に把握することにより、火山災害の軽減を図る

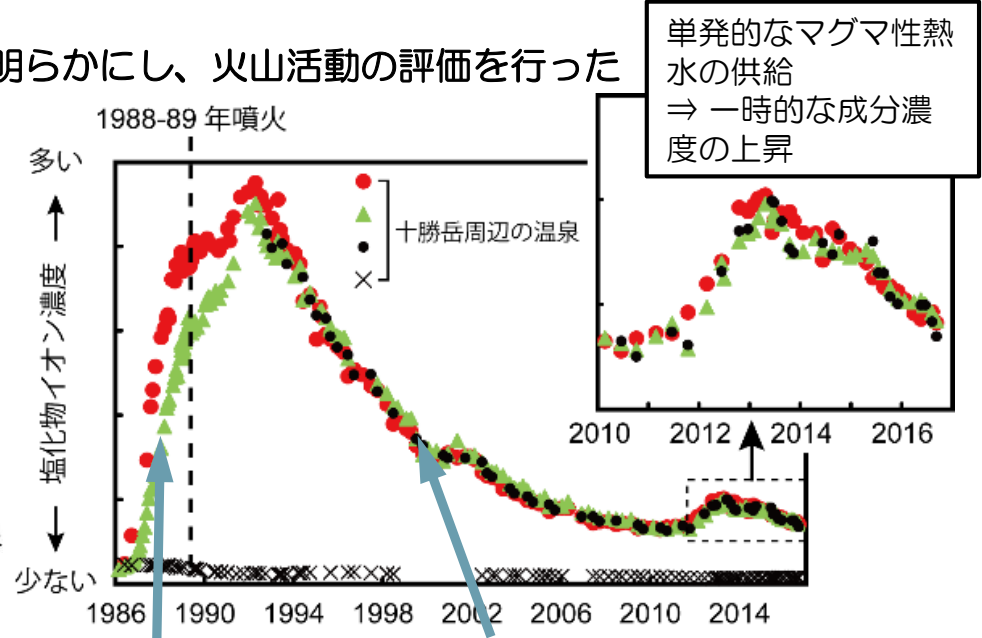
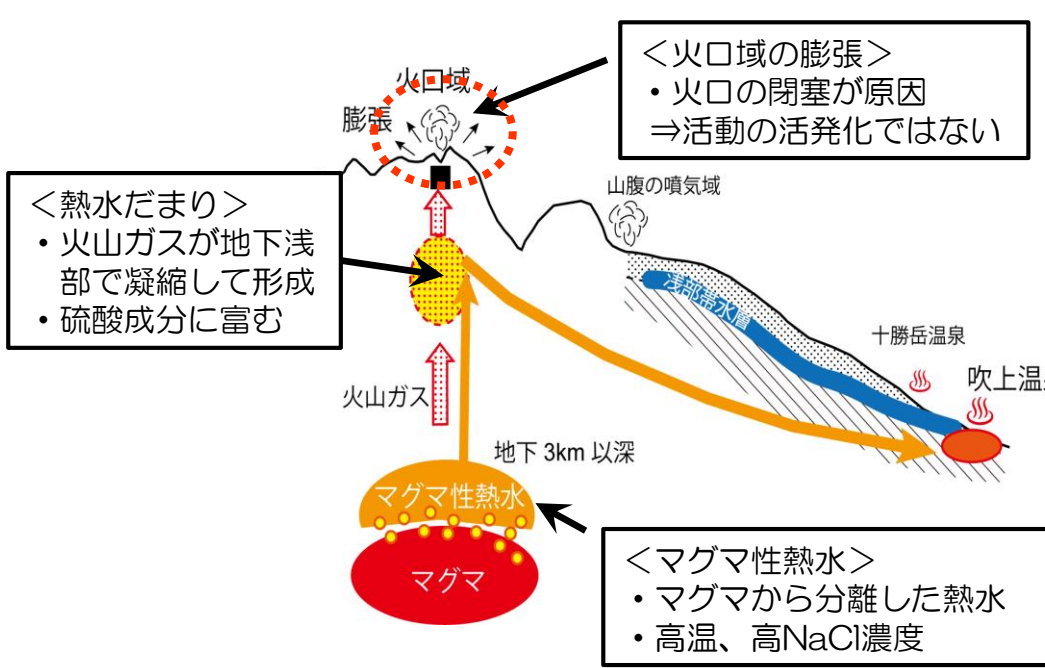
## 背景

- 2006年から火口域が40cm以上膨張し、2011～13年に吹上温泉で成分濃度に変化
- しかし、これらの変化が直接的に火山活動の活発化と関連性があるのかは不明  
⇒ その関連性を明らかにするためには、火山の内部構造と熱水の流れの把握が必要

## 成果

◎多項目の調査手法を用いて、火山の内部構造と熱水の流れを明らかにし、火山活動の評価を行った

### ●明らかになった火山の内部構造と熱水の流れ



マグマ性熱水の継続的な供給  
⇒ 温泉の成分濃度の上昇

マグマ性熱水供給量の低下  
⇒ 温泉成分濃度低下

温泉成分濃度の変化と火山活動変化の相関を確認  
⇒ 火山活動の評価に温泉観測が有効

## 期待される効果

- 継続的な温泉観測によって、噴火へと向かう火山活動の活発化を捉えることが可能となる。
- 気象庁\*が噴火警戒レベルを適切に設定する際に活用され、周辺住民や登山者への防災対策に役立てられる。